

平成30年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

桜川市 解説

組	番	氏名
---	---	----

番号	解 説	答
1	桜川市を運行するコミュニティバスの愛称「ヤマザクラGO(ゴー)」は、応募総数421件の中から選ばれました。この愛称は、地域資源のヤマザクラを用いることで、桜川市がヤマザクラの里として、将来に向かって進んでいくことをイメージしています。	4
2	「サンパル」を英語表記すると「SUNPAL」となります。SUNは太陽、PALは友達・仲間と日本語訳ができ、これらを合わせると「太陽の友達」となります。	1
3	福来(ふくれ)みかんは江戸時代から栽培されていたと言われており、普通のみかんより小ぶり(直径3~4センチメートル)で、強い酸味と香りが特徴のみかんです。福来(ふくれ)みかんの産地である桜川市酒寄地区では、10月下旬から12月上旬にかけてみかん狩りを楽しむことができます。	3
4	2018年(平成30年)3月をもって廃校となった真壁小学校及び紫尾小学校は、日本初の近代的学校制度を定めた1872年(明治5年)の学制の公布を受け、1873年(明治6年)と1874年(明治7年)にそれぞれ開校し、その後約145年間、地域の子供達の学び舎として、それぞれの地域のシンボルとなりました。	4
5	筑波山地域ジオパークは、筑波山、霞ヶ浦、関東平野など多彩な地形・地質の特徴や成り立ちを見ることができる貴重な「大地の遺産」として2016年(平成28年)9月に日本ジオパークに認定されました。筑波山地域ジオパーク内にある桜川市の加波山や筑波山では良質な花崗岩(かこうがん)が産出され、昔から「真壁石」、「羽黒石」などのみかげ石の産地として知られてきました。	2
6	雨引山楽法寺(あまびきさんらくほうじ)は、通称「雨引観音」と呼ばれ、安産、子育て祈願のお寺として県内外から多くの参拝客が訪れる有名なお寺です。花の名所としても知られており、毎年6月10日から7月20日の間に開催されるあじさい祭では、境内に咲き誇る10種類3,000株のあじさいが新緑に映える美しい風景を楽しむことができます。	1
7	筑波線は1918年(大正7年)の開業以来、廃線となる1987年(昭和62年)年3月31日まで岩瀬駅と土浦駅間で運行されていました。当時、筑波線には全部で18の駅があり、そのうち桜川市内(旧岩瀬町、大和村、真壁町)には8つ駅がありました。	2
8	羽黒駅の南に位置する榊箕ヶ池(ますみがいけ)は、白鳥が飛来する場所として知られています。毎年、気温が寒くなりきつた11月末ごろに飛来し、暖かくなる3月くらいに飛び立っていきます。昨年は一番多い時期で30羽ほどの白鳥が榊箕ヶ池(ますみがいけ)で羽を休めていました。	2
9	2018年(平成30年)5月23日に桜川市はフィリピン共和国のパコール市と友好交流都市協定を締結しました。友好都市協定はブルガリア共和国シリストラ市に続き2都市目となります。パコール市とは昨年10月に岩瀬小学校とバヤナン小学校でのICTを活用した英会話交流がきっかけで、今後は英会話交流に加え様々な分野で交流を深めていきます。	3
10	こだますいかは通常のスイカより早い3月から出荷が始まり、5月上旬に収穫最盛期を迎えることから、二十四節気の立夏(5月5日ごろ)を「こだますいかの日」として制定し、市の代表作物であるこだますいかを多くの人に知ってもらうためにPRしています。	1
11	2019年に開催されるいきいき茨城ゆめ国体で、桜川市の県営ライフル射撃場と岩瀬体育館ラスカがライフル射撃(CP以外)の会場となります。2018年(平成30年)9月にリハーサル大会が開催され、来年がいよいよ本大会となりますので、みなさんもいっしょに茨城国体を盛り上げましょう。	4
12	桜川市に2018年(平成30年)10月に新たに開院した「さくらがわ地域医療センター」は、風邪やケガをした時に治療を行う外来診療や、病気を早期に発見するための検診も行います。また128名の患者が入院することが可能な病院です。	2
13	桜川市は常陸秋そばの作付面積・収穫量が県内上位で、秋になるとそばの花が開花し一面に白い花が咲く美しい風景を見ることができます。	3
14	サイクリングルートナビサイト「ちゃりさんぽ」はスマートフォンやタブレットの使用も考え、自転車に乗っていても使いやすいシステムとなっていて、地図上に表示されるおすすめサイクリングルートを、現在地を確認しながら迷わず移動することができます。	2
15	かつて祭りで見られる権現山山頂を目指して登る松明(たいまつ)の列は、真壁に夏の終わりを告げる風物詩です。平将門の出陣式の名残と言われておりましたが、現在は五穀豊穡を願う祭りとなっております。	1
16	上野沼は、江戸時代初期(1648年~1651年)に農業用水の確保のために造られた灌漑(かんがい)用の沼です。	4
17	青木堰は増水のたびに流していたため、1831年(天保2年)に名主館野勘右衛門(たてのかんえもん)が村の救済を農政家として有名だった二宮金次郎こと二宮 尊徳(にのみや そんとく)に頼み、1833年(天保4年)に青木村復興事業のひとつとして青木堰を完成させました。	4
18	江戸時代末期久保田吉兵衛(くぼたきちべえ)を祖とする真壁石燈籠(まかべいしとうろう)は、厳しい弟子相伝(でしそうでん)により伝えられ、1995年(平成7年)に国の伝統工芸品に指定されました。切り出しから仕上げまで18の技法が用いられ、繊細優雅な彫刻に優れています。	2
19	当時の染色は植物の葉、花、実などを利用していました。青(藍色や紺色)は、藍の葉を刻み、発酵させて、染料にしました。	3
20	流鏑馬(やぶさめ)とは、疾走する馬上からの鎗矢(かぶらや)を射る、日本古来の伝統武芸です。この流鏑馬(やぶさめ)をスポーツとして競技化し、競技普及や地域活性化などを目的として、大和流鏑馬(まほろばやぶさめ)合戦が毎年5月下旬に大和ホースパークで開催されています。	1
21	「土佐日記」著者としても有名な紀貫之ですが、「後撰和歌集」(ごせんわかしゅう)で「常よりも 春辺になれば 桜川 波の花こそ 間なくよすらめ」と詠んでいます。すでに1,000年以上も前のことです。紀貫之自身は桜川の地を訪れてはいませんが、東国の桜川の名が、遠く平安京の都人まで届いていたという証です。磯部地区の磯部稲村神社には、その歌碑(かひ)があります。	4
22	鹿島神社の氏子たちが、その年の当番の家もしくは公民館に集まり、物相(もつそう)と呼ばれるお椀に高く盛られた飯を食べあうお祭りが大飯まつりです。その年の作物の実りを神に感謝するとともに、人々の健康を願うための行事です。	2
23	ヤマユリは、ひときわ大きな白い花を咲かせ、かなり遠くからでも気がつくほどの強い甘い香りを放ち、桜川の里山に多く自生しています。花言葉である「荘厳」(そうごん)に表されるとおり、夏の雑木林の中で堂々と咲く花で、桜川市を象徴するかのようです。	3
24	小山寺は735年(天平7年)に聖武(しょうむ)天皇の勅願(ちよくがん)により、行基(ぎょうき)を開基として創立されたと伝えられており、地元では「富谷観音」(とみやかんのん)の愛称で親しまれています。国の重要文化財に指定されている三重の塔は、1465年(寛正6年)に建立されたもので、開運・安産・子育てに御利益があるといわれています。	4
25	1974年(昭和49年)に国の指定を受けた天然記念物「桜川のサクラ」は、桜川磯部稲村(さくらがわいそべいなむら)神社の参道約1キロメートルの両側と馬場約5,500平方メートル内にある約500本に及ぶ白山桜で、史跡名勝天然記念物制定委員でもあった三好博士が、特に特徴のある桜11種類に名前(桜川句・樺句・初重櫻・初見櫻・大和櫻・源氏櫻・白雲櫻・薄毛櫻・青櫻・青毛櫻・梅鉢櫻)をつけ、自身の『桜花図譜』に掲載しています。	3